

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100673		
法人名	株式会社 ブリング		
事業所名	グループホームゆず (こまち)		
所在地	秋田県秋田市仁井田本町3丁目10番18号		
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「あなたらしい生活を支援します」「安心できる暮らしを大事にします」「あなたの夢や希望を大事にします」という理念のもと、一人ひとり、その人らしい生活をしていただけるように努めています。利用者様にも役割を持っていただき、職員と一緒に出来る事を行っていただいております。  
 ・新型コロナウイルス感染症予防のため外出がほとんど出来ないため、施設内で身体を動かす時間を多くするようにしています。また、換気や消毒を今まで以上に頑張っています。  
 ・施設内でも季節の変化を感じられるように、季節の行事食や壁に季節を感じられる作品を作成し、展示しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年10月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出が出来ない分、施設内のレクリエーションを充実させている。ユーチューブを参考に段ボール等で獅子舞や神社、神輿や竿燈等の道具を作ったり、大すごろくや風船バレー等のほか歌を歌ったり、室内で魚釣り遊びをしたりと、筋力が低下しないように工夫している。季節ごとの行事も活発に行っており、誕生日やお花見、運動会や花火、スイカ割にクリスマスやお正月と、毎月の楽しみとなっている。  
 以前は利用者2名程で順番に外食を楽しんでいたがコロナ禍で難しいため、代わりにマクドナルドやピザ等のテイクアウト品を購入してホーム内でいつもと違う食事を楽しめるようにする等、感染症対策で制限がある中でも何が出来るかを模索しながら実践している施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-)+(Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしい生活を大事にします」「安心できる暮らしを大事にします」「あなたの夢や希望を大事にします」と3つの理念が見える所に貼り、共有するように心がけている。	分かりやすい言葉で作られた事業所理念が、事務所や職員の休憩室、トイレ等、職員の目に付きやすい所に掲示されており、職員は「この理念を念頭に仕事をしていれば、間違いがない」と実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。新型コロナウイルス感染症予防のため、行事が中止になりほとんど交流ができていない。散歩時に近所の方に挨拶している。	町内会に入っており、コロナ禍以前は町内行事にも参加していた。最近は散歩の時に、近所の方と挨拶したりと付き合いはある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	定期的に運営推進会議等を開催し、認知症の方への理解や支援を地域の方に伝えている。現在は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防のため、施設の利用者・職員のみで運営推進会議を開催している。外部には文書で報告している。	施設内で開催し、運営推進会議の資料を地域包括支援センターに文書にて報告している。	民生委員や町内会長等、外部の意見を聞く工夫や取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	秋田市介護保険課や生活保護課などと連絡を取り合い、協力関係を築いている。	入院時のオムツ支給についてアドバイスをもらったり、生活保護課や介護保険課、地域包括支援センターとも連絡相談をしたり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で身体拘束や虐待について学んでいる。言葉遣いなど職員がお互いに注意しあっている。また、センサーを使用することで身体拘束せずに安全に生活できるようにしている。	2～3分毎に移動し転倒の多い利用者も、ご家族の理解を得て、動きを制限すること無くケアを行っている。また年2回の研修も行い、施設全体で身体拘束及び虐待をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	今は成年後見人を利用している方はいないが、情報をいつでも提供できるように勉強している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用者様やご家族様に対し、契約内容や重要事項を説明し同意を得ている。県外のご家族様には電話と文書でやり取りしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時や利用者様の状態報告時に意見や要望等を聞く機会を設けている。普段から連絡をとり、話しやすい関係を作るよう務めている。	ご家族には小まめに電話連絡し、意見を聞く機会を作っている。「食事のメニュー表が欲しい」とのご家族の意見があった際は作成して対応する等、遠方のご家族からの要望にも出来る範囲で応えている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	申し送りや連絡ノート、毎月の会議にて意見・提案を聞く機会を作っている。アンケートや直接、話をする機会を設けている。	風通しの良い職場であり社長に直接話することもできる。管理者は、自分から言えない職員に対しては1対1で話しかけるなどし、意見を聞き出せるよう配慮している。コロナ禍となり、感染対策の為にワゴンや足踏みゴミ箱の購入の要望が職員から出たこともあり、それらの意見は反映されている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症連絡会(ケアパートナーズ)に参加しているが、研修会が中止が多く交流は減っている。管理者、計画作成者だけであるが、他のグループホームの運営推進会議に参加し情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に事前訪問し、ご本人の要望等を聞くようにしている。ご家族やケアマネージャーなど周囲からも話を聞き、関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にこれまでの経緯や困っていること等を聞き、今後について話し合いを行っている。入居後も連絡を取り、安心して利用していただけるよう務めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ役割を持っていただき、皆様に手伝っていただいている。「ありがとう」の言葉・気持ちを忘れずにお伝えし、信頼関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症予防で面会制限をしており、なかなか会えていない。窓越し面会や電話、手紙やハガキのやり取りを行っている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるように、手紙や電話のやりとりを支援している。	面会は、コロナ禍で中止していたが、最近では窓越しでの面会を再開した。県外からのご家族であっても制限をすることなく、窓越しで顔を見ながら携帯電話で会話をするなど工夫している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの関係性を考えつつ、職員が声掛け、間に入ることで関わり合いが増えている。レクリエーションや協力して作業をすることで仲間意識ができています。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、いつでも相談に来れるように伝えている。入居中から信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見・要望を確認し、ケアプランに反映している。また、ご家族様からの情報、日常の様子から必要なケアを考えている。	普段の生活状況から利用者の思いを汲み取り、意見や要望の把握に努めている。ユニット会議やサービス担当者会議では、それらを職員間で話し合いながら必要事項を検討している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様、支援関係者から情報を得るようにしている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご本人やご家族様から随時、意見・要望を聞き取りをしている。毎月サービス担当者会議を開催し、意見を出してもらっている。また、日々の変化によりその都度職員と話し合いをしている。	居室担当職員とケアマネジャーが中心となってアセスメントやモニタリングを行っている。その際に個別介護計画書の原案を作成し、それを基に他職員も含めたサービス担当者会議で話し合い完成させている。利用者の、「家族に電話したい」「毎日ヨーグルトを食べたい」などの意向もプランに載せ、家族の協力のもと実践している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌により情報を共有している。毎月の会議では、介護方法、声かけの仕方など具体的なことを話しあっている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の祭りや地域の行事に参加させていただいている。現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、自粛している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の状態、入居前のかかりつけ医と相談している。受診が困難な場合は施設の往診(細谷病院)を紹介している。受診時は最近のご本人の状況を報告している。	入所前から通っている馴染みの病院を、ご家族の協力のもと受診や往診を継続している。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックをし記録することで、普段の状態を把握している。訪問看護師が週1回訪問し、状態の確認していただくほか、24時間電話で相談を受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が同行し、ご本人の状況を伝えている。ご家族様や相談員と連絡をとり、状況確認をしている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針を説明している。主治医と連携を図り、今後について主治医とご家族様、施設とで話し合いをしている。今の状態について報告している。	病院や訪問看護の協力のもと、看取りを行った事もある。看取りはやらないと決めず、臨機応変に対応している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員を呼んでの救命救急の研修は新型コロナウイルス感染症予防のため行っていない。緊急時の対応方法や緊急連絡先はわかりやすいようにしている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、避難先・避難方法の確認をしている。	避難訓練は災害マップに載っている水害を中心に2～3か月に1回行っている。備蓄品の管理もきちんと行っており、今年で期限が切れるものなども把握できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声かけ、対応を行っている。本人に伝わりやすいようにジェスチャーを入れるなど工夫している。居室には無断で入らない等、気をつけている。	排泄介助が必要な利用者には、それぞれに合った介助の方法となるよう配慮している。入浴もできるだけ同性介助を心がけている。言葉かけについては職員同士で確認し合っており、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪きり等の声かけやその日の洋服を一緒に選ぶようにしている。女性の方は化粧やお風呂上りの肌のお手入れができるように支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食を提供している。調理や盛り付け、片付けも個々の力を活かし、一緒に行っている。個別に食べたい物の購入や提供をしている。	畑ではいろいろな野菜を収穫し、提供している。利用者も調理に参加しており、調査当日は、たまこを作ったりキノコを割いたりしていた。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし医師や看護師とも相談して状態把握している。食事量も一人ひとりに合わせて盛っている。食形態もその方に合わせ食べやすい物・好きな物を提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・介助をしている。訪問歯科による定期健診を行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態により声かけ・介助をしている。排泄チェックを行い、訴えのない時には誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援している。	チェック表を使って利用者個々の生活リズムを把握し、時間で誘導している。また、そわそわした様子を職員が感じ取り臨機応変に対応する等、利用者一人一人の行動を見ながら支援している。トイレには要所要所に手すりが設置されており、スペースも広く安全に配慮されている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽体操を行い、体を動かすようにしている。水分量の確認、腹部マッサージなど行っている。下剤を服用されている方は便の量や形状で調整をしている。訪問看護師によるお腹の確認もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大体の入浴日は決めているが、希望時間を聞くなどしている。拒否が強い利用者様には時間や職員をかえて声かけ・メモで誘う等、工夫している。入浴剤を使用し、楽しんで入れるように支援をしている。	入浴を拒否する人には、時間や曜日を変更する等柔軟に対応している。入浴回数が少ない利用者から誘うなど工夫し、基本的には週2回は入浴できるように支援している。回数に上限は無く、毎日入浴することもできる。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする人・しない人、その日の体調により自由に休んでいただいている。室温をチェックし、エアコンを入れるなど調整している。冬は布団を事前に湯たんぽで温めるなどしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルして、いつでも確認できるようにしている。薬に変更があった場合は申し送りして報告し、状態観察をしている。症状に変化があった場合には、医師、看護師に報告・相談相談している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり残存能力を生かし、役割を持っていただいている。個別で嗜好品を提供している。レク活動や行事など楽しんで生活できるよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため、近所の散歩やドライブのみになっている。落ち着いた時は以前のように外食や自宅で過ごす時間をとりたいと思う。	コロナ禍により中止していたドライブだったが、少しでも外の空気を吸ってもらうことができるよう人が少ないところを選んだりして、再開している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり必要時に使えるようにしている。お金が手元にないと落ち着かない方には、ご家族様の了承をいただき、少額を持っていただいている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつものホール以外に談話コーナーがあり、利用者様が自由に使えるようになってきている。利用者様の作品をホールに掲示している他、掲示板に季節の飾りつけを行っている。職員が摘んだ花や散歩で摘んできた花を飾るなどしている。	音に敏感な利用者もおり、気を付けながら席の配置を行っている。又、蓄熱を活用することで、室内は一定の温度で保たれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士でソファでくつろいだり、談話コーナーでお茶タイムをするなど、自由にのんびり過ごせるようにしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や枕を自宅から持ってきていただいている。テレビを持ち込み好きな番組を観たり、棚を飾っていたり自由にしている。	持ち込む物に制限は無い。塗り絵が好きな人の部屋には塗り絵があったり、自分で作った入れ物が飾られていたり、個々の特徴を活かした部屋となっている。中には、夫の写真を飾り、毎日写真の前の水を何度も取り替える利用者もあり、それぞれが自由に過ごしている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙や目印をつけ、本人がわかるように表示している。声かけ、介助は必要でも本人の状態に合わせ自立した生活が送れるようにしている。		